

安全で幸せなお産を支える麻酔科医がいます

出産に関わる 麻酔についてのご案内

硬膜外鎮痛法による産痛緩和

LABOR EPIDURAL ANALGESIA

安全で効果的な鎮痛を24時間体制で提供し、
あなたのお産を全力でサポートします！

硬膜外鎮痛法の特徴

1 他の産痛緩和法よりも、効果が確実

様々な理由で、お産の痛みを和らげて欲しいと希望する妊婦さんは増えてきています。

産痛緩和法には、大きく薬を用いない方法と、薬を用いる方法に分けられます。

薬を用いない方法には、ラマーズ法に代表される深呼吸法、マッサージ、水中分娩、アロマセラピー、鍼灸法、催眠療法などがありますが、その産痛緩和効果には個人差が大きいことが報告されています。

一方、薬を用いる方法は、個人差が少なく、産痛緩和効果が確実です。

2 赤ちゃんへの影響が、もっとも少ない

硬膜外鎮痛法は、脊髄（背骨に守られている神経）の近く（硬膜外腔）に薬を投与して、産痛を和らげる方法で、他の鎮痛法と比べて、痛みを緩和する効果が高いことが知られています。

点滴や吸入による鎮痛と違って、薬が全身を巡らずに神経へ直接作用するため、薬が胎盤を通過して赤ちゃんへ届くことが、ほとんどありません。

これらの理由から、現在では硬膜外鎮痛法は産痛緩和法の中心となっており、世界的に行われています。

3 分娩後の回復が早く、体力が温存できる

効果的に産痛を緩和することができるため、分娩出産での体力を温存することができます。

また、心臓に持病がある妊婦さんや血圧が高めの妊婦さんでは、心臓の負担を軽くしたり、血圧の上昇を抑えたりすることができます。

当院では、合併症があるため経膣分娩は難しいと言われながら、この方法を用いて経膣分娩を行った方の経験が豊富にあります。

4 全身麻酔を避けることができる

分娩中は、様々な理由から帝王切開に切り替えることがあります。

特に赤ちゃんを一刻も早く娩出させなければならない時には、全身麻酔を選択せざるをえないこともありますが、そのような時に硬膜外鎮痛を行っている場合、全身麻酔を行うことなく、そのままスムーズに手術の麻酔に移行できるメリットもあります。

分娩中の過ごし方

- ★ 定期的に血圧を測定させていただきます
- ★ いきみ始めるまでは、分娩台の上で横を向いて過ごしていただきます。
- ★ 立ち会い出産やお産後の授乳は、通常通り行うことができます。
- ★ 陣発入院後、硬膜外鎮痛による産痛緩和を希望される場合、**固形物の摂取は禁止させていただきます。**
- ★ 迅速な対応を心がけておりますが、状況によっては開始が遅れることがあります。

開始する時期

- ★ 陣痛が強くなってきて、痛みをとって欲しいとリクエストがあった時に開始します。
- ★ 陣痛が5分間隔で、子宮口が3～5cmくらい広がった頃に始めることが多いです。
- ★ 自然の陣痛に合わせて産痛緩和を行うことで、より自然なお産に近い状態で痛みを減らします。

実際のやり方

- ① 分娩台の上で横になるか、座っていただき、背中を丸くします。
- ② 背中を消毒し、腰のあたりに局所麻酔をします。
- ③ 局所麻酔をした場所から、細いチューブ（カテーテル）を挿入します。
- ④ カテーテルから鎮痛薬を注入して、陣痛による痛みをとります。
- ⑤ 開始してから、30～40分くらいで痛み止めの効果が出てきます。



起こりうる問題点

- ▶ 血圧が下がることがあります。
- ▶ 下半身に力が入りにくくなることがあります。
- ▶ 尿意を感じにくくなることがあります。
- ▶ 顔や身体がかゆくなることがあります。
- ▶ お産後に頭痛を起こすことがあります。
- ▶ 分娩が長引くことがあります。
- ▶ 陣痛促進剤を使う可能性が高くなります。
- ▶ 鉗子・吸引分娩の可能性が高くなります。
- ▶ 熱が高くなることがあります。
- ▶ 稀にカテーテルが血管内へ入ることがあります。

Q & A よくある質問

Q. 硬膜外鎮痛法による産痛緩和は、安全ですか？

A. 正しく行えば、お母さんにとっても、赤ちゃんにとっても安全に行うことができます。当院は、妊婦さんの麻酔を専門とする産科麻酔科医が専任で働いている日本では数少ない病院の一つです。全ての硬膜外鎮痛法による産痛緩和は、産科麻酔の専門的なトレーニングを受けた医師によって行われています。起こりうる合併症については、早期発見、早期治療を心がけて、診療にあたっています。

Q. お産の痛みはどれくらい楽になるのですか？

A. ほとんどの場合は、“痛みはあるけど大丈夫”という状態になります。しかし10人に1人の頻度で、カテーテルの位置を調整したり、麻酔をやり直したりすることがあります。

Q. お産の痛みがないと、赤ちゃんへの愛情が薄れるのは本当ですか？

A. お産の痛みに耐えることだけが、赤ちゃんへの愛情を生むのであれば、帝王切開で産まれた赤ちゃんは、お母さんからの愛情が少ないのでしょうか？満足なよいお産、幸せなお産を経験するために、痛みが必要なものとは我々は考えていません。これまで、科学的な研究において、産痛緩和が母子関係へ悪影響を及ぼすことは証明されていません。

Q. なぜ分娩中は自由に食事ができないのですか？

A. 大きくなった子宮や陣痛の影響で、分娩中は胃の中に食べものが溜まりやすくなっています。一方、分娩中に帝王切開が必要となるかどうかは予測が難しく、一刻を争うような状況では、全身麻酔による帝王切開が必要となります。全身麻酔を行うと、胃の中の食べものを吐いて、それが肺へ流れ込んで、ひどい肺炎が起こることがあります（誤嚥性肺炎）。この肺炎を予防するために、分娩中に胃の中を空っぽにして、安全に麻酔ができるように備える目的で、分娩中の食事を制限させていただいています。

Q. 分娩中の水分摂取について教えてください。

A. 分娩中の誤嚥を避けるため、右に上げた“飲むもの”以外は口にしないで下さい。ただし、産科麻酔科医が誤嚥の危険性が高いと判断した場合、緊急帝王切開の可能性が高くなった場合は、速やかに絶飲食とさせていただきます。なお、**固形物の摂取は控えて下さい。**

飲むもの	
水	お茶
果肉のないジュース	ブラックコーヒー
炭酸飲料	スポーツドリンク

Q. 事前に準備しておくことはありますか？

A. 当院で硬膜外鎮痛法による産痛緩和を希望される妊婦さんには、**原則として産科麻酔科外来を受診**していただいております。硬膜外鎮痛法の利点だけでなく、欠点もきちんと理解していただきたいと思っていますので、ご理解いただければ幸いです。産科麻酔外来での説明で不十分な点は、スタッフまで遠慮なくお尋ね下さい。

Q. 埼玉医科大学総合医療センターの実績を教えてください。

A. 2002年から700人以上の妊婦さんが、当院で硬膜外鎮痛による産痛緩和をうけました。当院で硬膜外鎮痛を選択した妊婦さんは、**15%** (7人に1人)で、そのうち**76%**が初産婦さんでした。硬膜外鎮痛を行った方のうち、**61%**が正常経膈分娩、**28%**が鉗子・吸引分娩でした。帝王切開に移行した方は**11%**で、これは自然経膈分娩で帝王切開になる確率と変わりません。
(データは2002年1月から2012年9月まで)

Q. 費用はどれくらいですか？

A. 当院では硬膜外鎮痛法による産痛緩和の費用として、通常の分娩費用に加えて14万円をいただいております。鎮痛開始から分娩まで2時間以内と短い場合は、5万円へ減額させていただいております。この中には、薬剤の料金と手技料も全て含まれております。